

日本人はこれから
もつともつとノーベル賞を取りますよ



小柴昌俊

Masatoshi Koshiba

こしば・まさとし●1926年愛知県生まれ。51年東京大学理学部物理学卒業。55年米国ロチェスター大学大学院修了。70年東京大学理学部教授に就任。宇宙線分野、素粒子物理学分野で常に世界の最先端を歩み続ける。87年カミオカンデにて、世界で初めて超新星爆発からのニュートリノの観測に成功。これによりニュートリノ天文学という新しい学問を切り開く。02年ノーベル物理学賞受賞。現在、財団法人平成基礎科学財団理事長。東京大学特別栄誉教授。

なぜあなたはそんなに大きな仕事を成し遂げることができたのか、などと聞かれことがあります。ぼくはただ自分がやりたいと思ったことをやってきただけなんですよ。人から押し付けられたことだったら、ここまで本気にはならなかっただでしょうね。

人から無理やり与えられたことをやっていたら、もし困難に出会ったとき、それを乗り越える力は湧いてきませんよね。自らやりたいと思ったことだからこそどんな困難も乗り越えられるし、だいいち止めようなどという気が起きません。

ものごとに取り組むときに、自主的にやるのと人から与えられるのとでは、そのところが大きく違うと思います。

基礎科学というのはすぐに儲けにつながるようなものじゃありません。でもとてもやりがいのあるものだし、人類の夢やロマンを担うものです。

若者が自由に、安心してそういうものに打ち込める環境をつくるのは本来、国の役割だと思いますが、そうなっていないので、基礎科学を普及させる財団を立ち上げました。04年から高校生や大学生を対象に「楽しむ科学教室」というものを開いていて、宇宙物理学や脳科学、生物学などで第一線の研究者に最先端の科学を教えてもらっています。

この教室のポイントは「楽しい」じゃなく「楽しむ」としているところ。

自ら学び、自ら楽しむことを大切にし

ようということなんです。毎回たくさんの若者が自分の意志で集まって来てくれるんですが、やっぱりみんな、すごく意欲を持っています。どんどん質問が出るし、すばらしい感想を寄せててくれます。

若者が意欲をもつということについてぼくらにできるのは、若者がいろいろとチャレンジできる環境をつくってあげることだけではないでしょうか。

岐阜県の神岡にカミオカンデ(現スバーカミオカンデ)という研究施設をつくろうと考えたのも、もともとは東大の小柴研に集まる学生たちに実験のおもしろさを実感させたかったからなんです。

素粒子について本格的な実験をやるには、それまではスイスやアメリカなど海外の研究センターに出向くしかありませんでした。しかし学生のことを考えたら、ぼくはどうしても国内につけたかった。そういう場を作ることが、ぼくの務めだと思っていたんですね。

カミオカンデは現在、ぼくから数えて3代目の世代になり、今やニュートリノ研究の世界的なメッカになっています。世界各国から研究者が集まり、ここから数々の研究実績が挙がっています。

カミオカンデに限らず、日本の基礎科学というのはすごいんです。日本は基礎科学が弱いなどという人もいますが、ぼくからすればとんでもない話で、世界に誇れる成果をたくさん挙げています。

ノーベル賞のような権威ある賞を受賞する人も、これからどんどん増えていくと思いますね。それは何もぼくがノーベル賞をもらったから言うのではなく、ずっと前から思っていることです。

だから日本人は、もっともっと胸を張つていい。日本人って、日本人が思っているよりも優秀な民族ですよ。

高校は今、あまり働きやすい環境ではないという話を聞きます。こんなことしたら叱られるんじゃなかろうかと、教育委員会や文部科学省に気を使って仕事をしている先生が多いといいますね。それはやっぱり、先生方にとってはつらいことでしょう。ぼくは学校というところは、先生方が教えることに常に喜びを感じられるような場所であってほしいと思っています。

教えることに情熱をもっていて、その教科が大好きな先生が教えるから子どもがその教科を好きになる。教科が好きだからその先生を好きになるのではなく、先生が好きだから教科を好きになるというのが自然な流れですよね。

ぼくもそうでした。ぼくが物理学にここまで深くのめり始めたのも、朝永振一郎先生をはじめとするたくさんのすばらしい先生方に巡り会えたからです。

だから教壇には、本当にその学問が好きな先生に立ってほしい。そういう学校であってほしい。ぼくはそんなふうに願っています。